The Entomological Society of Japan

スリ目が並んでゐる。これを更に擴大して見るとヤスリ目は單なる細條の列ではなくて皺線の列であることが解る。孵化直後の幼蟲には未だかゝるヤスリ目は見られないが，最後より數へて第9齢のものでは腹部第4～6節にあらはれ，最後より數へて第5齢位からは 3～7 節に亙つて存在する。

發音はこのヤスリ目と後肢腿節の緣とをすり合せて行はれるが，この際腹部が左右に打ち振られるのであつて，後肢は動かされない。音はシュシュ……，又はジルジル…… と聞える。

これは極めて明瞭な Stridulationsorgan であつて，バツタ類の或種に見られる樣な "Organum stridens abdomine-metafemorale" に屬する。發音の持つ生態的意義に關しては未だ研究すべき餘地はあるが "防禦" といふ點に最も意味があるらしい。これは幼蟲を放置して何等手を觸れぬ場合には絶對に發音せぬことから考へられる。

この發音は幼蟲であるといふ點からも，水棲昆蟲であるといふ點からも興味があるが，蜻蛉類（Odonata）に於ける最初の發音例である點に於て最も注意すべきであらう。

* Kontyu, 8, p. 106 (1934)

活動電流に依る寄生蠶蛆の檢出に就いて

八　木　誠　政

DETECTION OF DIPTEROUS PARASITE OF THE SILK WORM PUPA BY THE ACTION CURRENT.

N. Yagi.

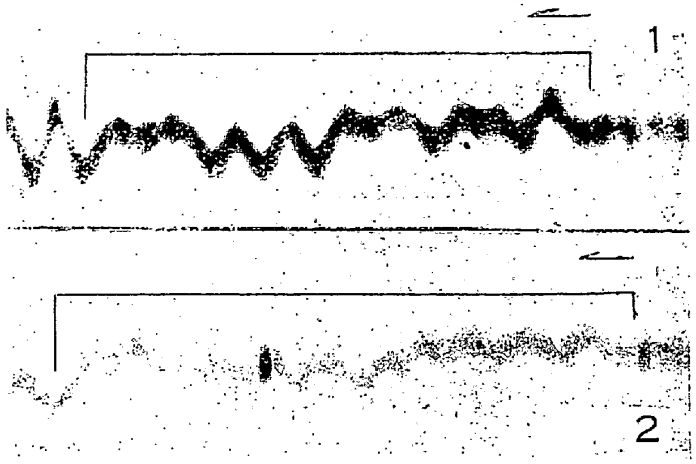
蠶蛹體內に寄生せる蠶蛆（*Crossocosmia sericariae*）を其の蠕動運動に依りて生ずる活動電流（action current）を利用し，寄主體の外部から寄生蟲の居る部分を探索する無分極電導子を接せしめて，電流計に依り寄生の有無乃至位置を檢出し得ることを報告する。

蠶蛹は通常靜止狀態にあるため微弱な心搏の外，蛹體全體の運動によりて起る活電流は常時に於てないと見做して差支ない。然るに寄生蠶蛆は常溫ならば

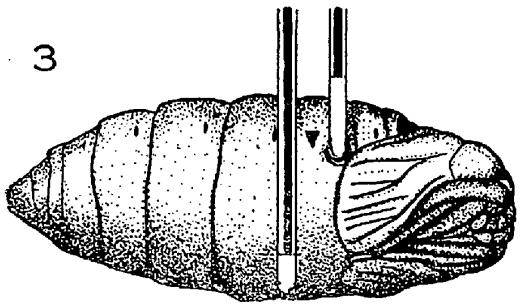
NII-Electronic Library Service

The Entomological Society of Japan

殆ど常に攝食運動を續けて居ると考へられる。從つて其の運動に依り活動電流を生ずるは明らかである。今外界に於て蛆の蠕運動をなすに當り１回の環節收縮波が體の前方より後方に通過する際の活動電流を見るに圖１の如くである。



蛆が蛹體内に居りて生ずる如上の活動電流を、圖３の如く電導子を以つて一つの極は蛹の氣門に近く置き他の極を蛆の頭部に當る蛹外皮に接せしめる時は圖２の如き電流變化曲線を生ずる。卽ち蛆の１回の蠕動により生ずる活動電流は蛹體の外部からでも直接の場合と殆ど變りない曲線として檢出されるわけである。



故に斯る方法を用ひ簡單に蠶蛹體に於ける蠅蛆の寄生有無及び其の位置を判定し得、引いて既に演者の發表したる殺蛆法を適用することも容易となる。

東京附近に於ける櫻返咲の一原因としての蟲害

河野廣道・杉原勇三

INSECT-DAMAGE AS A FACTOR AFFECTING THE SECOND BLOSSOM OF THE JAPANESE CHERRY-TREES IN THE VICINITY OF TÔKYÔ.

By Hiromichi Kôno and Yûzô Sugihara.

私共は、森林害蟲研究の傍、蟲害を受けた林木の恢復力その他、樹木に及ぼす蟲害の影響に就いて各方面から觀察を行つて居るが、今年圖らずも北海道に

NII-Electronic Library Service